

行事の意義を考える 季節の行事「お盆」

第127号 2019年8月5日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

8月の室礼



お盆は、亡くなった方々が浄土から現世に戻って来られる年に一度の日

きゅうりの馬：ご先祖様が馬に乗り、現世にお帰りになります。

なすの牛：ご先祖様が牛に荷物をのせ、現世にお帰りになります。

季節の果物：陰陽五行説に基づいた五色の季節の果実と野菜。

真菰（まこも）：ご先祖様が盆の間、滞在中空を現しています。

（亡くなった人は天でもなく地でもなく中空（水面）に降りてくると
言われ真菰は水草のため敷いたところが水面になるということから）

数珠：先祖との和合のために、菩提樹の種でつくった数珠。

ほおずき：別名灯籠草とも言い、実際に火を焚けない室礼では
火に見立てています。



「お盆」インタビュー

今回もカグヤクルーの宮前さんに「室礼」について、インタビューを行いました。



箸の足の長さを変えて、馬と牛の違いがわかるように



宮前家の実家で取れたスイカ・野菜を供えた年もありました！

奥山 はじめての室礼はお盆の盛物から始まりでしたね！

宮前 そうですね。思い返せば、初めての室礼体験教室の時はお盆がテーマでしたが、あれから室礼を習い始め7年目になります。

奥山 もう7年目になるんですね！

宮前 当時、ちょうど旅先でたまたま今の教室の先生が書かれた室礼の本に出逢い、その後、体験教室の申込連絡をして今に至るわけですが、まさかこんなにはまるとは！あの時、本と出逢え、直観で動いてみて、本当によかったです。

奥山 当時、急に室礼が始まり、きゅうりやナスに割りばしが刺さっていて何だろう？（笑）と思っていました。あれから7年毎月室礼が変わり続けているんですね、凄いことです。心境の変化はありますか？

宮前 自分自身の室礼を見直してみると、季節の野菜などを盛らせて頂いても「供える」というより「飾る」というような感じで、どこか形や見た目、知識などに捉われ、本来の大事な思いや心が、追いつけぱりになっている気がありました。ただ、最近は「行事」と言った時に、田んぼや古民家での取り組みから繋がってくるものを実感します。

奥山 それはどういうことですか？

宮前 お米を育てて無事に収穫出来たら、確かに感謝してお供えしたくなるように、自然とそういう気持ち、行いに繋がることを感じます。行事が日常と切り離されたものではなく、繋がっている感じが出てきて、暮らしの方も変わって来ました。カグヤで田んぼを始めなければ気づけなかったことかもしれません。

奥山 本当にそうですね。

宮前 奥山さんが「外を歩いていたら、季節の花が咲いていることにどんどん気付くようになった」と言っていたのと同じ感覚で、意識することで繋がりを感じやすくなったりして、そこに面白みを感じています。昔の人は庭の手入れをして、その時咲いている花を家の中で飾ったりし



盛物：糸瓜（錦糸瓜）、茄子、きゅうり、胡麻の木、数珠、ごま豆腐、ほおずき、散華。

黄色い大きな糸瓜の実は、茹でて実をほぐすと、薄黄色のお素麺のような糸状になることから、その糸は天のご先祖様と、私たちを繋ぐ物。

仏壇の前の三具足（線香、光、花）に見立てて、左には花の絵の散華と、右には灯りとしてほおずき

て、決して夏の花を冬には飾れないように、とても自然に、季節に沿った暮らしをしていたのだと思います。

奥山 本当にそうですね。改めてになりますが、お盆はどういった行事なのでしょう。

宮前 お盆は、祖霊をお迎えし、おもてなしをして、またあの世へとお送りするわけですが、現在では住宅の事情などもあり、そんな一連のお盆の行事を行う家庭も少なくなっているようです。

奥山 私も子どもの頃、祖父母宅で「お迎えに行くよ！」と提灯を下げて、祖父母と歩いたのを覚えています。

宮前 その時は意味が分からなくても、やったことがあると、大人になってからでも自分で調べたり、繋がりがやすかったりしますね。根底にあるご先祖様との繋がりを感じられたり、そういう場があることはすごいことだと思います。

奥山 特にお盆はご先祖様との繋がりを感じやすいですね。祖父母の実家には、曾祖父と曾祖母の遺影があり「どんな人だったの？」と聞いたことがあります。直接会ったことや話したことはなくても、その話を聞くだけで嬉しかった思い出があります。

宮前 知ってもらったおじいちゃんや、おばあちゃんも嬉しいでしょうし、それを知れて出来ることがあると思います。そう思うと大事なことで、安心感がありますね。お盆は実際に思い出を共有していたり、お墓参りに行ったり、心が働きやすい行事だと思います。

奥山 本当にそうですね。

宮前 子どもたちに大事な心を繋いでいくためにも、何度も何度も行事（事を行う）を重ね、大きな繋がり、循環の中で生かされていることを忘れず謙虚で感謝ある生き方を日々磨いていけたらと思います。

奥山 ありがとうございます。

●過去のバックナンバー

第124号

第50回保育環境セミナー前半

第125号

第50回保育環境セミナー後編

第126号

むかしの田んぼ_第2回草取り

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。